

<記載様式>

2018 「神戸から学ぶ」私の感想

2018年 1月 23日

氏名(会員番号)	相原延光(147)	参加回数	2 回目
参加した場所 (番号に○印)	1. 2. 神戸市役所・防災展示室 3. 人と防災未来センター 講演 4. 5. ○ 1. 17慰霊式典 6. ○ 震災資料保管庫 7. ○ その他(稲むらの火、野島断層震災記念館、岡山倉敷他)		
印象に残ったこと	1. 慰霊式典は2回目でしたが、雨傘の列に導かれ東遊園地公園に行くことができました。遺族の皆さんと同じ空気を感じてくることができました。平和な時代に育った私たちですが、この震災を忘れないという決意を新たにしました。 2. 震災保管庫では、巨大な構造物遺構を目の前にして言葉が出ませんでした。技術者の視点で遺構は震災の復興の歴史は防災教育の学習においても学ぶべきだと思います。関係者に感謝申し上げます。 3. 皆様とは別行動で本四高速道路を通過して淡路島に行きました。1995年の野島断層のトレンチが保存されており、約2000年の活動(弥生時代後期)も発見されました。もしかしたらこの地震が「国生みの神話」を産んだのかな?と思いました。残された震災遺構は言葉や映像以上の臨場感が伝わってきます。 4. 湯浅の「稲村の火の館」は戦時中に国定教科書で扱われていたことは知っていましたが、改めて濱口梧陵の功績や教訓やエピソードがよくわかり、授業資料をたくさん購入してきました。最後に元村堤防を歩き、人々の力の大きさを感じました。廣八幡神社の舞台上で手を叩いた時はアイヌの「ムックリ」演奏の音色に似ていました。 5. 皆様と別れた後の岡山の倉敷では、大原美術館本館と自然史博物館を急いで回り、考古・歴史学と防災教育の接点を求めた阿智神社の磐座や造山古墳(5~6世紀の前方後円墳)など渡来人の残した痕跡も多数見てきました。		
今回参加した感想	今回は家内を同伴して参加させていただきました。お互いに仕事を持っている頃は行動を伴にすることはなかったのですが、ようやく余裕が出て、誘いに乗ってきました。テレビの映像だけでなく、震災を肌で感じてくるのが目的でした。地理や歴史、加えて民族や言語学の知識をまじえて地学を語るができるようになったのが、私としては嬉しいことで、そうした姿勢が家内にもわかってくれたようです。		
その他	家内に感想を書くように言いましたが、筆不精だということで、書いてくれませんでした。そこで、相談の上報告としました。初対面の皆様に親切にいろいろ話させていただき、楽しい旅でしたとのことです。感謝申し上げます。		

<報告書について>

1. 提出:1月30日(月)までに池田さま宛提出をお願いします。 mitsu.nakajima@coral.ocn.ne.jp
2. 提出いただいた資料は取りまとめの上、報告・保存資料といたします。